

2025年
7月3回号
(A週)
大暑

もっといい明日へ
土曜超えてく

特集

のびのびと育まれた
いのち

Contents.

- コア・フード平飼いたまご
- コア・フード地鶏しゃも
- 酪農家の牛乳
- コア・フード牛肉セット

240日齢



episode 1.

おひさまぽかぽか
(栃木県)

ひのき山と呼ばれていた森を開墾し、養鶏場を開業。飼料は遺伝子組換え作物が混ざらないよう、分別生産流通管理されたものに限定。地元産の大麦などの資源を取り入れながら『コア・フード平飼いたまご』を生産しています。

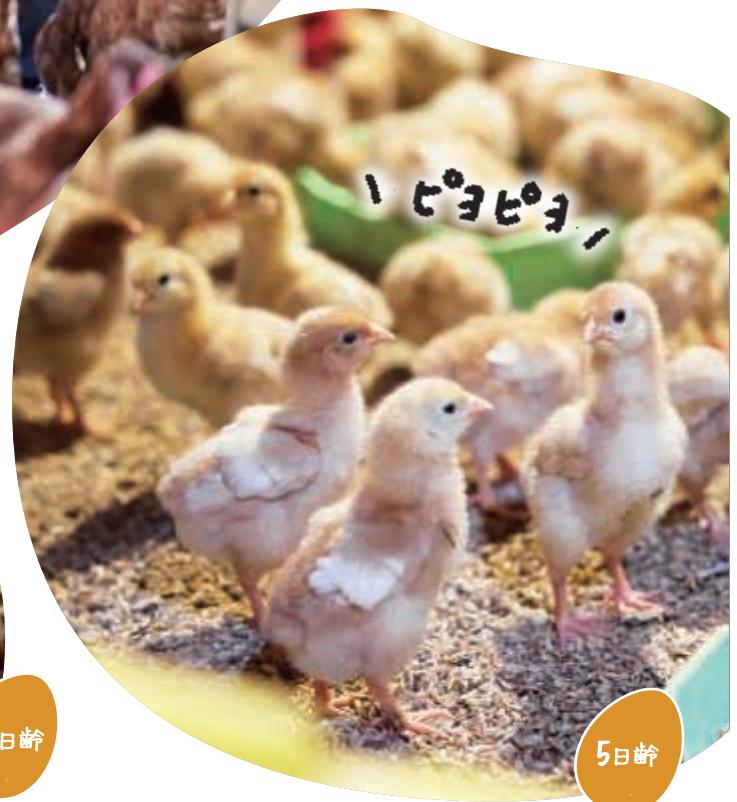
120日齢



60日齢



5日齢



生まれてから
最後まで健やかに

小屋を後にし、240日齢の平飼い鶏舎へと向かうと、もみ殻が敷かれた土の上で鶏たちが自由気ままに歩きまわっていました。人が入っても騒ぎ立てるようすは見せないのは、1日齢から人の手で給餌して育てているからだそう。

また、毎日ふん尿が出ているはずなのにどの鶏舎も驚くほどにおわづ、外気に触れているというのにハエもほとんど寄り付きません。

養鶏はキレイごとじゃない

小屋を後にし、240日齢の平飼い鶏舎へと向かうと、もみ殻が敷かれた土の上で鶏たちが自由気ままに歩きまわっていました。人が入っても騒ぎ立てるようすは見せないのは、1日齢から人の手で給餌して育てているからだそう。

また、毎日ふん尿が出ているはずなのにどの鶏舎も驚くほどにおわづ、外気に触れているというのにハエもほとんど寄り付きません。



取材した人...

高田 和彦 さん

1956年生まれ。採卵の養鶏を始めて40余の大ベテラン。鶏にストレスをかけないよう飼料づくりにこだわり、ひなから育てている。

できることは、鶏の健康のために何をするかだけ——。それを探し、仮説を立て、実践してきた高田さんだからこそ感じている「いのちの重み」なのだと身にしみます。

(写真／大岩里真、文／池田諭弘)

田さんの言葉にハッとします。

「だからね、もっと産地の実態を伝えていくべきないため、季節に合わせて温度や湿度、換気を細かに調整し、ストレスが少なく衛生的な環境を整える必要があります。

手間と時間を費やしても1日齢から育てる理由を聞くと、「丈夫で健康な鶏を育てたいから」と高田さん。そのため、小屋の中でも運動できるスペースを確保し、平飼いしている。何よりも、だわっているのが飼料。ひな腸内環境を整えるため、地元産の大麦・小麦や飼料米、昆布などを自家配合し、食物繊維とミネラルを充分とれるようにしているのだと言います。

「エサと水には乳酸菌や枯草菌など多様な菌を加えています。おなかが丈夫になれば栄養の吸収率も高まり、からだつきもよくなりますから」

ません。「ツンとくるアンモニア臭はないでしょう？」腸内環境が整つていれば、ふんはさらっとするし、変におわらないものなんです」。

採卵は150日齢ころから始まり約500日齢まで続きます。40年にわたって平飼いを追い求めてきた高田さんですが、言るのは答えじやないと思うんですよ」

「鶏はキレイごとじゃないです」とポツリ。平飼い鶏舎であれケージ飼い鶏舎であれ、「親鶏から卵を取り上げ、最後はいのちまで奪う」という結果は変わらないとの高田さんと知らぬのとでは、卵との向き合い方も違ってくると思いますから」

できることは、鶏の健康のために何をするかだけ——。それを探し、仮説を立て、実践してきた高田さんだからこそ感じている「いのちの重み」なのだと身にしみます。

500日齢まで続きます。40年にわたって

平飼いを追い求めてきた高田さんですが、言るのは答えじやないと思うんですよ」

「鶏はキレイごとじゃないです」とポツリ。平飼い鶏舎であれケージ飼い鶏舎であれ、「親鶏から卵を取り上げ、最後はいのちまで奪う」という結果は変わらないとの高田さんと知らぬのとでは、卵との向き合い方も違ってくると思いますから」

できることは、鶏の健康のために何をするかだけ——。それを探し、仮説を立て、実践してきた高田さんだからこそ感じている「いのちの重み」なのだと身にしみます。



「いい牛舎の条件って何だと思います？」
そう尋ねてきたのは、「榎本農場」の代表・榎本裕太さん。『コア・フード牛』を手がける「ノーザンび～ふ産直協議会コア・フード部会」の生産者のひとりです。

「牛が7割くらい寝ている牛舎は優秀。それだけリラックスできているってことだからね。何もないときはゆっくり寝て、のんびり食べたものを反す（飼料を胃から戻し咀嚼し直して飲み込むこと）してくれているといいな」

牛を健やかに育てるコツは、いかにストレスを与えないか。そのため、牛舎内の温度や湿度、床の状態はもちろん、明るさにも気を配ります。榎本農場では、何か異常はないか朝晩2回全牛舎を見まわるのが日課です。それに加え、給餌や床上げをしながらさらに2回、一頭一頭牛の健康状態をチェックします。



ノーザンび～ふ産直協議会 コア・フード部会 (北海道)

北海道内にある6つの産直産地で構成。いずれの産地も飼料は国産100%、抗生素質は使いません。牛の生理に合った飼育方法でアンガス種またはアンガス系統種を育てています。

「いい牛舎の条件って何だと思います？」
牛に一生を懸ける畜産人の決意を感じました。
(写真) 藤倉翼、文/池上公一

申し込みは
8月4回まで!

コア・フード牛肉セット 始めるなら今!

コア・フード牛とは

「安心できる良質な牛肉を食べたい」組合員と、「国産飼料だけで、牛本来の生理に合った育て方をしたい」生産者の思いがひとつになつた『コア・フード牛』。予約登録制で、長期的にさまざまな部位をバランスよくお届けすることで、「1頭丸ごと」買い支えの仕組みを実現しています。継続的な利用が、産地の挑戦を支えています。

192244

A週お届け

※初回のお届けは
10月2回

192252

C週お届け

※初回のお届けは
9月4回

コア・フード 牛肉セット(秋・冬)

各セット 2,580円(税込2,786円) 冷蔵

左記の「注文番号」と「数量」を注文用紙にご記入ください。



産直



調理例

セット内容 下記のa~gのセットいずれかよりスタートし、アルファベット順に約半年間で全セットが届きます。(例)dセットからスタートした場合、d→e→f→g→a→b→c

a セット	b セット	c セット	d セット	e セット	f セット	g セット
ロースステーキ (牛脂付)2枚 180g <small>消費お届け日 含む4日間</small>	バラすきやき用 230g <small>消費お届け日 含む4日間</small>	モモブロック 200g <small>消費お届け日 含む4日間</small>	すきやき用(牛脂付) 220g <small>消費お届け日 含む4日間</small>	ひとくちステーキ (牛脂付) 140g <small>消費お届け日 含む4日間</small>	手切り焼肉用 160g <small>消費お届け日 含む4日間</small>	すきやき用切落し (牛脂付) 220g <small>消費お届け日 含む3日間</small>
ひき肉 240g <small>消費お届け翌日</small>	切落し 230g <small>消費お届け日含む3日間</small>	ひき肉 240g <small>消費お届け翌日</small>	切落し 230g <small>消費お届け日含む3日間</small>	ひき肉 240g <small>消費お届け翌日</small>	切落し 230g <small>消費お届け日含む3日間</small>	カレーシチュー用 220g <small>消費お届け日含む3日間</small>
420g	460g	440g	450g	380g	390g	440g

Q. 何が届くか選べる?

A. さまざまな部位をバランスよくお届けするため、セット内容を選ぶことはできません。上記a~gのいずれかからスタートし、約半年間ですべてが届きます。(秋・冬)と(春・夏)の半期単位でお届け内容が変わります。

Q. 中途で解約はできる?

A. やむを得ない場合を除き、ご利用中の途中解約は受け付けていません。どうしても商品の受け取りができない場合は、お届け日の10日前までに注文センターへご連絡ください。

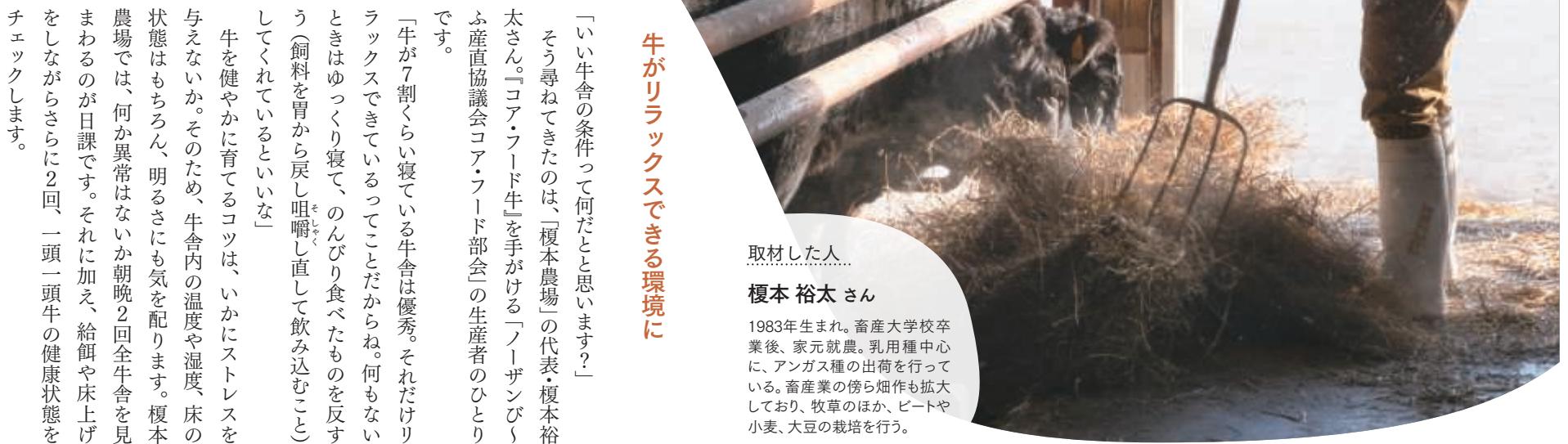
Q. すでに登録している場合は?

A. 登録は自動更新されるため、新たな申し込みは不要です。数量やお届け週の変更、解約について半期ごとに受け付けます。詳しくは、毎年1月と7月にお届けする商品に同封する『牛肉通信』をご覧ください。

※インターネット注文の場合、注文番号記入の方法でお申し込みください。

※今回登録された方には、お届け開始のお知らせを、お届け情報に記載いたします(9月2回を予定)。

※応募が多い場合は、抽選などによりお届けできない場合があります。あらかじめご了承ください。



牛がリラックスできる環境に

取材した人...

榎本 裕太 さん

1983年生まれ。畜産大学校卒業後、家元就農。乳用種中心に、アンガス種の出荷を行っている。畜産業の傍ら畑作も拡大しており、牧草のほか、ビートや小麦、大豆の栽培を行う。

また、暑くなるこれから季節は牛が飲む水の量が増えます。排泄量が増えるため、尿石が発生しやすく炎症が起こりやすい。そのため、夏場はより繊細な衛生管理、健康管理が求められます。

「みんなで責任もつてやろうねって。それが、快適な環境を保つ秘訣つかな」

「いのち」を扱うことの責任

『コア・フード牛』として育つ牛は、アンガス種またはアンガス系統種。牧草主体で大きく育ちやすい品種です。

「牛は元々草食。だから、子どものころから牧草を食べると胃がしっかりとします。胃が丈夫だと、大きくなつてからいっぱい食べられるようになります」

抗生物質に頼らず元気に育つのも、牧草主体の飼料のおかげだそう。ほかにも、母牛の自然交配、一定期間の放牧など『コア・フード牛』はとにかく牛の生理に合っている」と話します。

「今後挑戦したいのは、母牛の完全放牧です。放牧場の整備など、課題は山積みですけどね」

どうしてこんなに手間をかけてまで、牛らしいあり方にこだわるのか尋ねると「小さいところから身近にいた牛のことが好きなんですよ」と、榎本さん。

生きもの相手となると、365日休みなし。長時間のきつい仕事を少なくありません。それでも父の代の約4倍となる1600頭規模まで拡大できたのは、牛への強い思いがあつてこそ。

「いちをいたく以上失礼がないようにしないといけない。だから、それ以外のすべてはひとが責任をもつてやらないといけないんです」

落ち着いた雰囲気で話す言葉の一つひとつに、牛に一生を懸ける畜産人の決意を感じました。

(写真) 藤倉翼、文/池上公一